

## 茅屋

貴族に哀しみはなく  
貴族に愛は哀し

霧深き世に舟を進め  
傷手のみ確かなり

典雅の中に積まれしは  
「安穩」と「うらはら」の背中合わせ

と<sup>とき</sup>時代が何かを求めるとき  
没落に落ちのびるのみ

微かなるものは踏みにじられ  
無常の「力」が荒れ狂う

貴族に力なく  
貴族に愛は強し

時代の腐敗を背負いきり  
導べなき自由の弱さを背負いきり

繁栄も没落も消え  
ただ愛のみを抱き締め

茅屋にひとりやつれ  
生を棄て去り

ただ美しいままにと  
そのために孤独を招き寄せる

貴族に哀しみはなく  
貴族に愛は哀し

(1986.10.28)